

## 「ろくろで作る益子焼」



1月9日(土)  
「ろくろで作る益子焼」を開催しました。12名参加がありました。今年度も講師として、益子焼伝統工芸士の萩原芳雄氏、萩原芳典氏のお二人に御協力いただきます。



午前中は映像を交えながら、講師の萩原芳雄氏から益子焼の歴史やこれまでの陶芸活動について講話をいただきました。午後からは講師による練りからろくろ成形までの手本の後、作業を開始しました。



手本を見た後は「ろくろ成形」と「手びねり陶芸」の2グループに分かれ、交代して活動を行いました。初心者の方には難しく思えるろくろ成形ですが、講師の先生方の丁寧な御指導のもと、皆さん熱中して作業していました。



手びねり陶芸の様子です。ろくろで作る作品とは異なる、手びねりならではの良さを生かしながら皆さん素敵な作品に仕上げていました。



1月10日(日)  
2日目は、クラフト活動として牛乳パックのパルプを使って紙すきを行いました。和紙で作ったちぎり絵や切り絵と一緒にすいて素敵な作品を作っていました。



1月16日(土)

1月16日(土)に実施予定だった高台削りの作業は、緊急事態宣言発出期間中のため、中止となってしまいました。時間が経過し、作品が乾燥してしまうと作品を仕上げるができなくなってしまいます。そこで、講師の先生方に、高台削りの作業を行っていただきました。参加者の気持ちを汲みながらそれぞれの作品を一つ一つ丁寧に仕上げてくださいました。



3月13日(土)

講師の先生方に仕上げてくださいました作品を素焼きし、絵付け・釉薬がけの作業を行いました。2ヶ月ほど期間が開いてしまいましたが、参加者の皆さんは焼き上がりを想像しながら陶芸絵の具で絵付けをしたり、釉薬をかけたっていました。



絵付け・釉薬がけの作業終了後、講師の萩原芳雄氏の手によって窯入れを行いました。窯の中の温度が安定するよう作品を丁寧に詰めていただきました。



3月25日(木)～

今年度は全体で集まっての鑑賞会は実施できなかったのですが、作品の引き取りの際に参加者の皆さんから焼き上がった作品を手にしての感想を一言ずつ書いてもらいました。皆さん世界に1つだけの自分の作品にとっても満足していました。



今年度は新型コロナウイルスの影響で、全ての行程を行うことはできませんでしたが、これからも、皆さんに満足していただける事業を計画していきます。また、お目にかかれる日を、芳賀青年の家職員一同楽しみにしています。